

調査結果の骨子

1 暮らし向き

テーマ	回答が多かった項目（内の数字は順位）及び特徴的な項目（下線部が特徴的な点、+ は前回比）
昨年に比べての暮らし向き	変わらない(50.7% <u>+5.5</u>) 良くなった(5.7% <u>+2.8</u>) 悪くなった(42.4% <u>-8.3</u>) (自営業48.1% 20.2)
暮らし向きが「悪くなった」理由	収入が減った(47.4% <u>-7.2</u>) (宇摩52.2% <u>+9.0</u> 他の圏域では全て減少) (全ての職種で減少)
具体的な項目毎の暮らし向きの変化	食生活や衣服など全10項目について項目毎に「良くなった」か「悪くなった」かを質問 貯蓄：「悪くなった」54.8% 7.3 所得・収入：「悪くなった」48.6% 8.2 衣服：「悪くなった」24.4% <u>10.5</u>
暮らし向きの程度	中(79.9% <u>+2.0</u>) 下(13.0% 3.0) (宇和島18.4% <u>6.2</u>)
資産の程度	中(66.2% <u>+4.0</u>) 下(23.9% <u>-3.8</u>)
普段の生活における時間的なゆとりの有無	ゆとりがある(51.6% <u>+2.1</u>) ゆとりがない(45.0% 3.2)
現在の暮らしに対する満足度	満足(63.1% <u>+4.7</u>) 不満(34.3% <u>-5.4</u>)
日常生活での悩みや不安	老後の生活設計について(59.4%) (50歳代78.9%) 家族の健康について(54.9%) 自分の生活上の問題(11.7%) (20歳代48.4%) <u>家族との人間関係に関する悩みや不安を感じている人が増加傾向</u>
生活の中で不足しているもの	収入(42.9% <u>-6.6</u>) 特にない(23.6% <u>+7.2</u>)
自由時間と収入に対する考え方	自由時間が減るくらいなら、収入は現在のままで良い(自由時間派)(41.0%) 自由時間を減らしても、現在以上の収入を得たい(収入派)(30.8%) <u>収入派は、性別、年齢別、職業別の全ての区分において、前回調査よりも減少。</u>
日常生活で充実感を感じる時	家族団らんの時(25.2%) 趣味やスポーツに熱中している時(19.3%)
暮らしの先行き観	悪くなっていく(42.7%) (50歳代49.5% 60歳代48.5%) 変わらない(33.2%)
改善したい暮らし向き(今後の暮らしで力を入れたい項目)	貯蓄(34.6%) (20歳代56.8%) 旅行・レジャー・余暇生活(17.1%) (60歳代28.8%) 食生活(14.3%) (70歳以上31.2%)
今後の暮らしに対する考え方	心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい(ゆとり派)(24.6%) まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい(物質派)(19.7%)
ゆとり派が重きをおきたい内容	健康を大切にす(42.9%)
物質派が重きをおきたい内容	広くて設備の整った家に住む(32.4%)

2 広報・広聴

テーマ	回答が多かった項目（内の数字は順位）及び特徴的な項目（下線部が特徴的な点、+ は前回比）
県の広報活動の周知度（知っているもの）	広報紙（41.1% 14.6） テレビ広報番組（40.1% 10.9） どれも知らなかった（37.0% <u>+14.4</u> ）
テレビ広報番組の視聴経験	見たことがない（62.9% <u>+3.7</u> ）
テレビ広報番組の感想	番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった（44.4%）
テレビ広報番組を見たことがない理由	放送されていることを知らなかった（63.3%） （ <u>40歳代65.0% +13.3</u> <u>70歳以上66.9% 11.5</u> ）
ラジオ広報番組の聴取経験	どれも聞いたことがない（91.3% +4.6）
ラジオ広報番組の感想	番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった（40.2%）
ラジオ広報番組を聞いたことがない理由	放送されていることを知らなかった（55.1%）
広報紙「愛顔のえひめ」の周知度	知っていた（49.6% <u>9.8</u> ）（ <u>20歳代17.0%</u> ）
広報紙「愛顔のえひめ」をどの程度読んでいるか	興味のあるところを読んでいる（49.9%）
広報紙「愛顔のえひめ」の感想	紙面は見やすく、情報量も適当である（56.0%）
広報紙「愛顔のえひめ」に取り上げるテーマの希望	県の行事・イベント・施設の紹介（58.8%） 福祉、医療に関すること（52.7%） 消費生活や暮らしに関すること（49.2%）
県政情報の情報源（情報を得る方法）	テレビ（57.0%） 新聞（54.4%）（ <u>50歳代以上50%超 30歳代以下40%以下</u> ） 県のHP・インターネット放送局・県職員ブログ（4.0%）（ <u>30歳代9%程度</u> ）
今後の広報活動の取組み	県の広報番組の充実（58.2%） 県のHP・インターネット放送局・県職員ブログの充実 （10.1%）（ <u>20歳代及び30歳代20%程度</u> ）
知りたいと思う県政情報	県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容（32.1%） 新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介（29.8%）
県民の声を県政に反映させる手段	県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する（30.1%）
県民の声の伝達方法	県に電話をかける（21.8%） 市町役場を通じる（15.1%） 県庁に電子メールを送る（5.5%）（ <u>30歳代12.7%</u> ）
県政出前講座の周知度	知らなかった（89.6% 2.8）
県政出前講座を利用したいかどうか	利用したいとは思わない（23.3%） 利用したい（17.5%）（ <u>20歳代13.5% +7.0</u> ） わからない（59.3%）
県政出前講座を利用したいと思わない理由	利用する時間がないから（20.6%） 設定されている講座テーマを知らないから（15.8%）

3 愛媛県のイメージ

テーマ	回答が多かった項目（内の数字は順位）及び特徴的な項目（下線部が特徴的な点、+ は前回比）
現在の愛媛県のイメージ	水と緑が多く、自然環境に恵まれている（83.3% +6.2%） 不便である（24.7%）（宇和島42.6%） 物価が安い（21.9%）（松山31.3%）
今後の愛媛県のあるべき姿のイメージ	水と緑が多く、自然環境に恵まれている（54.1%） （宇摩67.2% +20.4） 保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる（48.4%） （八幡浜・大洲55.4%）

4 県政への要望

テーマ	回答が多かった項目（内の数字は順位）及び特徴的な項目（下線部が特徴的な点、+ は前回比）
産業面	雇用対策（39.5%）（宇摩45.5% +13.9） 中小企業対策（14.8%）
生活環境面	社会福祉の充実（27.4%）（70歳以上37.2%） 子育て支援対策（11.2%）（20歳代22.2%、30歳代26.5%）
教育面	学校教育の充実（29.3%） 社会教育の充実（22.1%）

5 特定課題

テーマ	回答が多かった項目（内の数字は順位）及び特徴的な項目（下線部が特徴的な点）
消費者行政	相談窓口の認知度 県と市（又は町）の相談窓口のどちらも知らない（37.9%） 県と市（又は町）の相談窓口のどちらも知っている（24.4%） 市（又は町）の相談窓口だけ知っている（19.9%） 県の相談窓口だけ知っている（17.8%）
	消費者行政への要望 悪質事業者等に対する法律等に基づく指導の強化（64.7%） 市や町の相談窓口と共同で解決にあたる等の相談体制の充実（63.7%）
男女共同参画社会づくり	男女共同参画社会という言葉の認知度 言葉くらいは聞いたことがある（36.2%） 知っている（29.7%）、よく知っている（6.4%） 知らない（27.7%）（男性25.4%、女性29.8%）
	今後力を入れていくべきこと 保育の施設・サービスや、高齢者の介護や治療の施設・サービスを充実する（56.5%） 職場における男女の均等な待遇について周知徹底を行う（32.0%） 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する（27.3%）

テーマ		回答が多かった項目（内の数字は順位）及び特徴的な項目（下線部が特徴的な点）
ボランティア活動	ボランティアの参加状況	参加したことがない（63.4%） （ <u>20歳代50.5%</u> 、 <u>30歳代68.7%</u> 、 <u>40歳代68.6%</u> ）
	東日本大震災後の意識の変化	特に変わらない（51.0%） 機会があれば、ボランティア活動に参加したいと思うようになった （47.8%）（ <u>30歳代62.6%</u> ）
	ボランティア活動活性化への取組み	気軽にボランティア活動が始められるようなきっかけづくり（45.3%） ボランティアに関する情報が手軽に入手できるような仕組みづくり（37.5%） （ <u>20歳代51.6%</u> ）
	ボランティアキャンペーンへの参加	参加するつもりはない（62.7%） （ <u>40歳代及び60歳代除く年齢層60%超</u> ） 参加したことはないが、次回のキャンペーンには参加してみたい（27.2%）
住宅用火災警報器	設置状況	設置している（52.8%） 設置していない（31.5%）（ <u>今治40.0%</u> 、 <u>宇和島36.9%</u> ）
	設置した経緯	自ら設置した（51.6%）
	設置していない理由	設置が義務化されていることを知らなかった（20.8%） （ <u>宇摩40.0%</u> 、 <u>今治25.0%</u> 、 <u>宇和島30.3%</u> ）
生物多様性の保全	生物多様性という言葉の認知度	知らない（44.1%）（ <u>男性39.6%</u> <u>女性47.2%</u> ） 聞いたことがある（36.4%）（ <u>男性36.9%</u> <u>女性35.8%</u> ） 知っている（19.5%）（ <u>男性23.5%</u> <u>女性17.0%</u> ）
	生物多様性保全のための取組み	森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全（37.5%）
臓器提供意思表示力 等普及啓発	意思表示カード等の認知度	知っているが、所持していない（65.0%） 所持しているが意思を記入していない（16.4%） 知らない（10.2%） 所持しており、意思を記入している（8.5%）
	家族が臓器提供の意思表示をしている場合、その意思に対する考え	尊重する及びたぶん尊重する（75.2%） （ <u>20歳代及び30歳代80%超</u> <u>40歳代～60歳代75%超</u> <u>70歳以上62.8%</u> ）
住宅の耐震性	現在の住居の新築時期	昭和56年6月以降に着工（53.0%） 昭和56年5月以前に着工（33.4%） （ <u>今治48.3%</u> <u>八幡浜・大洲51.9%</u> <u>松山25.2%</u> ）
	現在の住居の構造	木造在来（64.1%）（ <u>50歳以上約70%</u> <u>20歳代～40歳代50%前後</u> ） 鉄筋コンクリート造（15.7%）（ <u>20歳代～40歳代20%～30%近く</u> ）

テーマ		回答が多かった項目（内の数字は順位）及び特徴的な項目（下線部が特徴的な点）
住宅の耐震性	現在の住居の形態	一戸建て（ 82.8% ）（ <u>農林漁業100%</u> ） 共同住宅（ 13.4% ）
	現在の住居の所有関係	自己所有（ 80.2% ）（ <u>農林漁業100%</u> ） 賃貸（ 19.8% ）（ <u>松山25.8%</u> ）
	東日本大震災後の自宅の耐震性への考え方の変化	大丈夫だと思う（ 27.5% ） 以前から不安を感じていたが耐震改修までは考えていない（ 22.6% ） 今回はじめて不安を感じたが耐震改修までは考えてない（ 18.4% ）
	耐震診断の実施状況と実施していない理由	実施している（3.3%） 実施していない（96.7%） （理由）耐震改修にお金がかかる（ 61.1% ） 耐震診断にお金がかかる（ 55.6% ） 費用、診断の結果等の適切さをチェックできない（ 25.9% ）
動 博物館の資料収集活	博物館のイベント等への参加内容	常設展示を観覧（ 64.3% ） 企画展示・特別展示などの期間限定の展示を観覧（ 44.4% ）
	博物館資料の活用状況	愛媛の産業資料（過去の生活や風景等の映像、写真資料等）（ 45.1% ） 過去の衣類・道具など、生活や風習が分かる民俗資料（ 43.6% ）
	博物館への要望	資料の画像化、目録のデジタル化など、記録の保存と公開（ 45.1% ） 県内外の資料所蔵者への寄贈・寄託の働きかけ（ 40.4% ）